



昭和30年頃の高岡の森と北市場の様子
（「座光寺の百年」より）

北市場は、現在の市場通りの北側に位置しています。元善光寺駅から西側の一帯は、古くから「市場」と呼ばれています。古くから「市場」と呼ばれています。明治34年に旧竜西線が整備され、大正12年に伊那電が開通すると、一帯の人口は急増しました。地区を分ける必要に迫られ、このころから「市場」の北に位置するところから「北市場」と呼ばれるようになつたと考えられます。

街道に沿って拓けてきた北市場は、商業の街として栄え、「北市場商店街」といわれ時流とともに盛衰を重ねてきました。

地区では「田舎へ還ろう戦略」に取り組んでいます。この取り組みは、それぞれの地区的個性や魅力を最大限に生かすことで、「住み続けたい、住んでみたい地域づくり」を目指すものです。また、6月からは市内の希望した地区に直接ふるさと納税を行って応援できる「飯田市20地区応援隊」制度もはじまり、地域がより身近なものになります。

「ふるさと納税」といえば、高価な返礼品がなにかと話題になっていますが、この「飯田市20地区応援隊」では「地区との絆」を返礼としてお送りさせていただきます。具体的には、地区の祭りや行事へのご案内を行ったり、ふるさとの元気な様子を写真やお便りで伝えたりなど…、寄付という制度を通して、ふるさとの交流が末永く、幅広いものとなるよう願

ます。

この取り組みは、それぞの地区の個性や魅力を最大限に生かすことでも、「住み続けたい、住んでみたい地域づくり」を目指すものです。また、6月からは市内の希望した地区に直接ふるさと納税を行って応援できる「飯田市20地区応援隊」制度もはじまり、地域がより身近なものになります。

「ふるさと納税」といえば、高価な返礼品がなにかと話題になっていますが、この「飯田市20地区応援隊」では「地区との絆」を返礼としてお送りさせていただきます。具体的には、地区の祭りや行事へのご案内を行ったり、ふるさとの元気な様子を写真やお便りで伝えたりなど…、寄付という制度を通して、ふるさとの交流が末永く、幅広いものとなるよう願

う取り組みです。

座光寺地域では、この制度を利用し、今はふるさとを離れて暮らしている皆さんに、ふるさと座光寺に思いを寄せていただき、ますます発展するような取り組みを進めていくことを考えています。

「ふるさと納税」の絆や繋がり。それは目に見えないものかもしれません。ですが、この取り組みがふるさとを思い出し、皆さんとふるさとを繋げるきっかけになれば幸いです。



桃源郷(果樹の花)



麻績神社例祭・獅子舞

20地区応援隊寄付申出書及び郵便局専用の払取扱票をご希望の方は、送付いたしますのでお電話等にてご連絡ください。

- 飯田市役所 座光寺自治振興センター
TEL 0265-22-1401または、
- 飯田市役所 市民協働環境部 ふるさと定住支援課
TEL 0265-22-4511(内:5442)

ふるさとパック 夏の味覚満載便 2,000円(送料別)



「ふるさとパック」は旬の座光寺農産物の詰め合わせ。ふるさとを離れて暮らす方に、自然の香りや懐かしい味をお届けしています。

- お申し込み先 座光寺自治振興センター内 麻績の里ふるさと応援俱楽部 (TEL: 0265-22-1401・FAX: 0265-22-1475)
E-mail: zakouji@city.iida.nagano.jp
- お申し込み締切 平成29年8月31日
- お届け時期 平成29年9月上旬
- ※代金は商品到着後にお支払いください。



「住み続けたい、地域づくり」を目指して

先進の研究開発拠点 [蚕業試験場から知る拠点へ]

蚕業試験場

養蚕・製糸業が花形産業であった大正12年(1923)、当時の鼎村にあった飯田原蚕種製造所が、組織変えに伴い長野県蚕業試験場飯田支場として、座光寺の旧飯田工業高校の地に移転しました。昭和60年(1985)の高森町・南信農業試験場移転まで、この地で蚕業の研究等がなされました。



飯田工業高校

これまで多くの工業技術者を輩出し、地域の基幹産業である製造業に貢献してきた飯田工業高校が、平成元年、丸山町から蚕業試験場跡地に移転しました。平成25年までの24年間、ロボット製作教室や子ども科学教室、テックレンジャー等を通じ地域と関わり、また電気自動車レースやマイクロロードが、かつてのメインストリートを思わせます。



ボコン大会でも優勝を果たすなど、座光寺に若い元気な息吹を吹き込んでくれました。

知の拠点

旧飯田工業高校跡地は今後「知の拠点」として、航空産業、地場産業の振興拠点となります。蚕業、工業、そしてハイテク・情報化産業…常に時代の最先端技術開発を担ってきた当地の、新時代への役割が期待されています。



旧道
元善光寺前から農協通り、古瀬平裏を抜けて高森境に至る旧竜西線。一直線に延びた道が、かつてのメインストリートを思わせます。



選果場行啓記念碑
昭和44年(1969)8月26日、現在の天皇・皇后両陛下が皇太子・皇太子妃の時代、当時座光寺にあった選果場を視察されました。この選果場は規模や出荷量などにおいて南信地方屈指の施設でした。このときの記念碑が構内的一角に建っています。



秋葉神社碑
10年ほど前まで、毎年4月に地区の人々が会所に集いました。御札の配布は今でも続いている。よく見ると「秋」の字の左右が逆に彫られています。

平地2号古墳
12基の円墳からなる平地古墳群の、唯一現存する古墳で、横穴式石室が開口しています。管玉(くだたま)、金環(きんかん)が出土しました。近くには北市場のシンボルいちご桜があります。



北市場 路上点描



歩けば！が見えてくる 座光寺 19地区探訪⑫ 北市場



福金商店。農協東の藪沿いに数軒の店があった
(大正13年『座光寺の百年』より)



元善光寺駅前通り新設工事。右手に高岡の森
(大正13年『座光寺の百年』より)

寺駅が開業し駅前通りが整備されると、街は駅から元善光寺まで伸びていきました。門前町「元善光寺商店街」として規模を広げ、その賑わいは昭和50年代まで続きました。

「北市場商店街」の時代

明治から大正10年(1921)ころまで、北市場は地域商工業の中心地でした。明治期の史料に座光寺の商工業者が載っています。製糸業、瓦製造業、桶屋、傘屋、畳屋、旅籠等の職種が、市場地籍を中心に散在していました。

明治34年(1901)に竜西線(元善光寺前から農協通り北に延びる道)が改修されると、道路沿いに新しい店が並ぶようになりました。「北市場商店街」の誕生です。明治23年(1890)開業の小島(日の丸)製糸場は、大正8~9年ころまで操業していました。大正5~6年ころには藤本醤油醸造販売所が創業します。大正14年の絵図には、高岡の森の前辺りに商店や豆腐店が描かれています。



元善光寺駅前通り新設工事。右手に高岡の森
(大正13年『座光寺の百年』より)

寺駅が開業し駅前通りが整備されると、街は駅から元善光寺まで伸びていきました。門前町「元善光寺商店街」として規模を広げ、その賑わいは昭和50年代まで続きました。